

動労千葉佐倉支部に共闘おっ！

日刊動労千葉

80.9.25
No. 541

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄)三五八・九・八(会)三五三・二七二〇七

35万人体制合理化、燃料輸送延長攻撃を前に、佐倉機関区の全ての仲間に訴えます。

佐倉機関区で働くみなさん！ とりわけ、動労「本部」反動分子及び土屋粹らのデマ宣伝が渦まく中で態度保留してきた未結集のみなさん！ 動労千葉は、本日より「千葉地本再建」デッチ上げ策動粉碎・佐倉支部組織強化拡大のために第三次オルグを行います。すでに第一次オルグ（九月三日～五日）、第二次オルグ（九月八日～十日）のなかで、「本部」反動分子や土屋粹らの悪質陰険な動労千葉中傷・デマ宣伝・妨害工作を打ち破り新たに四名の仲間が動労千葉佐倉支部に結集しています。この四名の結集の事実こそ、「84名」で「支部業務再開」したなどという土屋粹らのペテンが破産し、「本部」派の将来展望がまったくないことをさし示しています。動労千葉は、みなさんが一刻も早く決断し共にわれわれとスクラムを組み、佐倉機関区職場の闘いと団結をかちとり、生活権利防衛のために共に進まれんことを訴えます。

佐倉支部の闘いで、
要員バックを勝ちとり、
「五六・三」にくさびうちこむ

佐倉機関区に働くみなさん。

堀口支部長を先頭に佐倉支部百十八名は、「五五・一〇」ダイヤ改悪攻撃に対し、執行委員会、職場集会、ダイヤ検討委員会等々を開催し、闘う体制を築いて要求獲得にむけて取組みを強化してきました。これは、佐倉支部が、佐倉機関区に働く労働者の労働条件と既得権を守る唯一の責任ある組合であると自覚しているからであります。

「五五・一〇」をめぐる闘いは、すでに「日刊」や、佐倉支部の情報で明らかにした通り、佐倉支部と全支部のガッチリと団結した非協力闘争をもって国鉄当局を追いつめてきました。

当局提案の佐倉機関区機関士十五名削減攻撃は、来年三月燃料輸送要員生み出しの攻撃であるとならえ、これを許さないものとして全支部は闘いを展開しました。その結果、休業4・公休1・予備1の計6名と検査係1名の要員バックをかちとり、職場の労働条件を守り、来年三月燃料輸送延長攻撃に大きなクサビをうちこむことに成功しました。

「本部」派土屋粹らの
組合員無視・ひきまわし

こうした佐倉支部の前進した闘いに比べて「本部」派土屋粹らの最近の動向はどうでありましようか。

土屋粹らがペテン的に「84名」で「動労支部業務再開」したと称して以来二ヶ月を経っていますが

いまだに組織人員は確定することができず、「84名」といわれている中の半数以上の方々が「俺は「本部」ではない」とはっきりいきていることと。さらに「執行委員会」すらも開かれずおよそ労働組合としての組織の体をなしていません。

したがって、「五五・一〇」交渉に際しては、組合員の要求をきき、執行委員会にかけて要求案づくりをするという、労働組合としての当り前のこともせず、土屋粹・鈴木（正）の独断で局交渉を進めるといふデタラメぶりであります。

これこそ、土屋粹らによる組合引き廻しの最たる見本といえましよう。

これが、こんにちの土屋粹らの実態であります。ちなみに土屋粹らが、当局に申し入れた「五五・一〇」要求は、佐倉機関区三作業増という全く現場を無視したものであります。

このような現場を無視した独善的やり方では、佐倉機関区の職場と労働条件を守ることができません。

佐倉機関区に働くみなさん。
来年三月燃料輸送延長問題は、佐倉機関区に働く以上避けてとおることはできません。

動労千葉は、三里塚農民と連帯し、多くの闘う労働者・人民の支援をうけて闘い抜く決意です。

この闘いは、八〇年代労働運動を戦闘的に再生させる重要な闘いであり、さらに国鉄三五万人体制合理化を粉碎する闘いであるからです。

佐倉機関区に働くみなさん。
動労千葉に結集し共にスクラムを組んで進みましよう。

全組合の家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！